

# 南アルプス市立八田中学校 後期自己評価書

平成27年1月9日(金)作成

学校長：奥山 邦次	記述者：教頭 数野一郎 教諭 清水 英樹
-----------	----------------------

1. 校訓 「日日新」
2. 本年度の学校教育目標  
「知育・徳育・体育」の調和のとれた人間形成  
は 励んで学び、確かな知識を持つ生徒 (知育) → 知の力  
っ 強い精神と身体を持つ生徒 (体育) → 体の力  
た 助け合い、いたわり合う心を持つ生徒 (徳育) → 心の力

3. 学校経営方針  
(1) 職員の創意・工夫により、開かれた特色ある信頼される学校づくりに努める。  
(2) 生徒理解を深め、一人ひとりの良さや可能性が活かされるよう努める。  
(3) 教職員としての資質能力の向上を図り、信頼される教育活動の実践・展開に努める。  
(4) 家庭・地域との連携により、望ましい教育環境づくりに努める。
4. 生徒の努力目標  
(1) 授業にしっかり取り組もう (主体的・能動的・積極的に取り組めたか)  
(2) さわやかに挨拶をしよう (今日の、この出会いを大切に出来たか)  
(3) 思いやりの心を行動につなげよう (相手の身になって考え行動できたか)  
(4) 主体的に活動しよう (3本の木を大切に、創意工夫をもち取り組めたか)
5. 教師の努力目標  
(1) 社会や地域の変化に対応できる力を持ち、常に自らを見つめ直していく教師  
(2) 異なるものを受け入れ児童生徒の特性を見だし伸ばしていく教師  
(3) 教職に対する責任感、探究力を持ち、生涯にわたり学び続けていく教師  
(4) 教員と児童生徒、また教師同士で互いに学び合い、育て合っていく教師
6. 学校経営の努力点  
(1) 知・徳・体の調和の取れた、「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成と実施に努める。  
(2) 自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る指導に努める。  
(3) 豊かな人間性をはぐくみ、心の安定を図る生徒指導に努める。  
(4) 体力・健康・安全に関する指導の充実に努める。  
(5) 家庭・地域・関係機関との連携を深め、開かれた信頼される学校づくりに努める。

## I 後期学校評価の結果と前期学校評価の比較

1. 教職員の自己評価  
(1) 後期の結果  
《A・B (肯定的評価) において》  
① A・B (肯定的評価) の合計が90%未満の項目について  
「学校運営3 あなたは、教育内容や生徒のようすを保護者に各種のたよりや通信で知らせている」87%  
(2) 前期との比較  
① A評価が10%以上向上した項目について  
「学校運営3 (項目内容同上)」77%→87%  
② A評価が10%以上減少した項目について  
該当項目なし  
《C・D (否定的評価) において》  
① C・D (否定的評価) が10%増えた項目について  
該当項目なし  
② D (否定的評価) の評価がついた項目について  
「学校運営3 あなたは、教育内容や生徒のようすを保護者に各種のたよりや通信で知らせている」  
「学校運営6 あなたは、生徒の学習や生活のようすを家庭に知らせ、家庭と連携して学校生活をよくしよとしている」  
※前期と比較すると、全体的には変化は見られなかった。しかし、学校運営3の項目に関しては、90%には届かなかったものの改善が見られ、学校での生徒の様子を伝えることができた。今後、さらにたよりや通信の発行・学校HPの更新に心掛けていきたい。  
(3) 次年度取り組み課題 (自由記述より)
  - ・全体的総合的に落ち着いた学校生活を送っていると思う。日々、先生方一人一人学年できめ細やかに生徒に声を掛け、素早く対応し、情報を共有しているからだと感じる。全教職員で情報交換を密にして、全校生徒を支援・指導するスタンスを忘れないでいきたい。
  - ・自省も含めて、それぞれの活動を通してよいものを創るだけでなく、その活動の目的、特に集団でものを創ることの大切さやそのための人との関わり方をもっと教師が意識して取り組んでいく必要があると思う。
  - ・「合唱活動・部活動・応援」における教職員間の共通認識をさらに図る必要があると感じる。
  - ・日常生活における委員会活動に課題が見られる。自主性を育て積極的に取り組む生徒を目指したい。
  - ・改善すべき点として、生徒のあいさつや時と場に応じた話し方・時間を守る習慣意識の向上等、基本的な生活習慣を根気よく指導していきたい。
  - ・本年度から取り組んでいる「自主学習ノート」の内容をさらに向上させ、家庭学習の定着が図れるよう指導していきたい。
  - ・学校は、学期1回の授業参加や学校開放日を設け保護者が参観できる機会を作っているが、広報活動が足りないせいか、参加率が低い。家庭や地域・学校が連携をしていくためにも、気軽に学校へ来れる雰囲気づくりを普段から心掛けていきたい。

## 2. 学校生活に関する生徒アンケート

### (1) 後期 A・B 評価の合計が 80% 未満の項目

- ・学校運営 1. あなたは、教室の前に掲示してある学校教育目標の達成のために何か具体的な努力をしていますか 【79%】
- ・教育課程 7. あなたは、「自主学習ノート」の取り組みが、自分の学力向上になると感じますか 【70%】
- ・特色ある学校 1. あなたは、八田中の特色である合唱活動を先生や仲間とともに向上させようと努力していますか 【79%】

### (2) 前期 A・B 評価の合計が 80% 未満の項目が、後期にどう変容したかについて 【前期→後期】

- ・学校運営 1. あなたは、教室の前に掲示してある学校教育目標の達成のために何か具体的な努力をしていますか 【79% = 79%】
- ・教育課程 7. あなたは、「自主学習ノート」の取り組みが、自分の学力向上になると感じますか 【72% ↓ 70%】
- ・生徒指導 1. 先生は、気軽に声をかけあったり、それぞれに合ったアドバイスをしてくれると感じますか 【79% ↑ 86%】

### (3) 前期 A・B 評価の合計が 80% 以上であったが、後期評価が上下 5% 以上変容があった項目

- ・特別活動 3. あなたは、生徒会活動や委員会活動等に積極的に取り組んでいますか 【88% ↓ 82%】

### (4) (2), (3) の項目の中で下がったもののうち、昨年後期と比べて上下 5% 以上変容があった項目

- ・該当項目なし

※教育課程 7 については、平成 26 年度より評価項目を入れたので変容を見ることはできない。

### (5) 前期評価との比較及び取り組みの成果と課題

前期 30 項目あるうちの A・B 評価の合計が 80% を割っていた項目が 3 つあったが、後期の評価では生徒指導 1 の項目が改善され 7% も伸びた。また、80% を割っていた 2 つの項目も 79% であり、概ね肯定的評価と捉えることができる。90% を超えた項目についても前期は 9 つ、後期は 10 と 1 つではあるが微増した。

しかし、教育課程 7 の項目に関しては、前期・後期とも大幅に低い結果になり、課題が浮き彫りになった。本年度、本校では校内研究の取り組みの一つとして、「自主学習ノート」の活用について研究を進めてきた。授業で学習した内容を、家庭で自主的に学習する機会を与えることによって、家庭学習の定着・習慣化をねらったものである。しかし、生徒自身が「やらされている感」が強く、内容も個人差が広がった。特に 2・3 年生にその傾向が強く、この取り組みに関しては長期的にわたって粘り強く指導をしていく必要がある。

学年別の結果について、1 年生は全体的に下降傾向にある。一学期は中学校生活に慣れようといろいろな活動に積極的に取り組んできた。しかし、2 学期に入り学校生活にも慣れ、いい意味での緊張感が薄らいできてしまった。特に D 項目に評価をつける生徒が多くなり、今後個別の対応に取り組んでいく必要がある。2 年生では、C・D につけた生徒が減り、全項目が伸びた。「中だるみの学年」ととく懸念される 2 年生だが、学校行事や部活動の中心になったことによる自覚が芽生えその結果が表れたのだと思われる。3 年生においては、すべての項目についてアップした。最上級生としての誇りと責任を自覚し、あらゆる活動において遺憾なくその力を発揮した結果が評価として表れたと思われる。

学校生活全般での「学校生活は楽しいと思うか」の質問に対して、全体としての変容は見られなかった。C・D を付けた生徒については、学校生活の中で居場所をつくり存在感が持てるような取組を行っていきたい。また、授業についても「わかりやすいと思うか」という質問についても A から B への推移が見られた。授業改善を行いながら「わかる授業の創造」を心がけ、さらに放課後や長期休業中での補習も行っていきたい。いじめの調査についても、A・B の評価では 92% の結果が得られたが、C・D をつけた生徒もいる。生徒会とも連携しながら、早期発見・早期対応を心がけ「いじめはしない・させない・許さない」を信条に取り組んでいく。

## 3. 学校生活に関する保護者アンケート

はじめに

今回の保護者のアンケートは、従来通り兄弟姉妹が在籍していても全生徒について回答をお願いした。その意図は、それぞれの生徒の所属する学年や学級・部活動等をベースとしているため、より多くの評価をいただくためであり、重複した保護者の方にはお礼を申し上げます。また、今回の提出率は 68.5% と過去 3 年間では一番高く、今後も学校教育発展のため御協力をお願いします。

### (1) A・B 評価の合計が 90% 以上の項目 12 項目 / 27 項目中

- ・学校運営 1. 学校は、学校教育目標を達成するために、さまざまな取り組みを行っていると感じますか 【96%】
- ・学校運営 2. 学校は、学校の教育活動の中で、合唱活動・部活動・応援に力を入れて取り組んでいると感じますか 【95%】
- ・学校運営 3. 学校は、教育方針や生徒の様子等を学年部会やたよりで積極的に知らせていると感じますか 【94%】
- ・学校運営 4. 学校は、校舎内外の施設・設備等の教育環境や防災等の安全指導の充実を目指していると感じますか 【90%】
- ・学校運営 5. 学校は、合唱や道徳公開などで地域講師の活用等、学校と地域が八田中教育推進のため協力していると感じますか 【100%】
- ・教育課程 4. 学級会活動は、学級集団の自治的向上をめざして充実した活動をしていると感じますか 【92%】
- ・教育課程 5. 学校は、総合（音楽）を通して、生徒の音楽を愛好する心情を養っていると感じますか 【91%】
- ・生徒指導 4. 学校は、生徒のあいさつや時間の厳守、家庭学習や提出物等、基本的生活習慣の向上を目指していると感じますか 【90%】
- ・生徒指導 5. 生徒は、学校生活全体を通して、のびのびと学び、安心して学校生活を送っていると感じますか 【94%】
- ・特別活動 2. 学校行事は、生徒の成長や学校生活に役立っていると感じますか 【98%】
- ・特色ある学校 1. 生徒は、八田中の特色である合唱活動を、教師とともに向上させようと努力していると感じますか 【93%】
- ・開かれた学校 1. 学校は、学期 1 回の一斉授業参観、学期 1 回の学校開放日、休日行事開催等、学校教育公開に努力していると感じますか 【95%】

### (2) A・B 評価の合計が 80% 未満の項目 3 項目 / 27 項目中

- ・教育課程 1. 教師は、基礎基本の確実な定着を目指し、やり方や教材を工夫していると感じますか 【75%】
- ・生徒指導 7. 学校は、いじめをなくそうと積極的に取り組んでいると感じますか 【72%】
- ・特別活動 1. 生徒は、進路学習や校外学習等に向けた取り組みで、学習目標も理解し、主体的に学習していると感じますか 【78%】

(3) 昨年後期評価との比較及び取り組みの成果・課題

昨年度のアナケート結果と比較すると9項目の評価がアップした。特に顕著なものは、「生徒指導2. 学校は、学校内外の情報を収集し、生徒の問題行動に適切に対応していると思いますか」については、14%のアップ(70%から84%)が見られた。家庭・地域・学校・教育関係諸機関が連携し、早期対応を図っている成果だと思われる。また、「生徒指導7. 学校は、いじめをなくそうと積極的に取り組んでいると思いますか」の項目でも10%の伸び(62%から72%)が見られた。いじめ防止対策推進法が施行され、本校においても「学校いじめ防止基本方針」に基づき、さらに、いじめについて未然防止・早期発見・早期対応に取り組まなければならない。学習面では、「特色ある学校2. 数学科の、TT少人数学習形態の授業は、学習の成果が出ていると思いますか」が9%アップ(74%から83%)した。個人差が生じやすい数学科において、授業の中で2人の教師が、つまづいている生徒に対して支援を行うこの学習形態は効果的である。今後、可能な限り継続できるように検討をしていきたい。

昨年と比較して下がった項目が4つあるが、ともに1%から4%の範囲であり、大幅にダウンしたものはない。しかし、結果を謙虚に受け止め、今後改善策を検討し来年度に取り組みを強化したい。また、自由記述については、今後念入りな分析をし、要回答を確実に保護者に届けたい。また、共通課題については、2月に行われるPTA学年部会等機会を捉え、学校の取り組み状況を理解していただく必要性を感じる。さらに、記名があるアナケートについては、時間をかけて丁寧な個別対応をしていきたい。

## II まとめ(成果と課題)

学校教育目標を念頭におき、教職員が意識しながら諸活動に取り組んでいる。特に本校の特色である「3本の木：合唱活動・部活動・応援」に関しては、八田中学校が創設以来取り組んでいる教育活動であり、伝統を継承し未来へ伝えていく必要がある。ただし、ただ単に行事があるからでなく、その教育的目的や目標等、常に生徒の実態に即し、変化に応じた適切な内容で取り組まなければならない。そのためには、PDCAサイクルにおける観察と調査、評価や分析、それらをもとに意見交換や共通認識を図るための環境づくり、運営委員会・職員会議等における検討が必要である。

学習面における基礎基本の取り組みに関しては、教師と保護者・生徒との意識に温度差がある。教師自身は、やり方や教材を工夫し、基礎基本の確かな定着を目指しているが、保護者や生徒は必ずしも感じてはいない。今後は、授業方法の工夫や改善、授業内容の難度や量により学習意欲を保持する個に応じた学習指導が必要である。また、校内研究で取り組んでいる、「My step ノート(自主学習ノート)」の充実を図るための研究会の活性化等目指したい。また、家庭とも連携を図りながら、自主的に学習する機会である「My step ノート」を使い、家庭学習を定着・習慣化させたい。

生徒指導においては、すべての生徒のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活がすべての生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになることを目指している。その基盤である学級経営において、Q-Uの活用やアナケート等生徒の実態把握に努め、保護者との連携のもと教育活動全般において、見通しを持った積極的生徒指導に心がけなければならない。県が推奨している「しなやかな心の育成プロジェクト」や南アルプス市の小笠原流礼法等、「心の教育」を充実させると共に、学校での居場所づくりを図りたい。また、いじめについては、教師サイドだけでは見つけにくい面もある。携帯電話の普及によるLINEやSNS等での誹謗中傷メールや書き込み等は顕在化しにくい。生徒会での取組「いじめ0宣言」とも連携し、いつでもどこでも何でも相談できる雰囲気づくりを図り、いじめ根絶に努めたい。さらに、課題のある生徒や不登校傾向にある生徒についても、一貫した指導とSCや必要に応じた教育関係機関との連携等、効果的な指導を粘り強く、教職員共通認識のもと実践していくことが重要である。

特別活動において、秋桜祭や合唱コンクール・強歩大会等を通して成果が見られた。行事等を行うことによって、それぞれの学級や学年が成長を成し遂げてきている。その中でも特に合唱コンクールでは多くの保護者に参観していただき、1学期に比べての成長ぶりに感嘆した感想もあった。連帯感や所属観をも育てることに繋がるのである行事に対して、今後とも行う意義や目的等を検証しながら来年度へ繋げていきたい。基本的な生活習慣であるあいさつや時間を守るという点では課題がある。意識向上を図る取組を生徒会や委員会・部長会を通して行っていきたい。

来年度に向かい、学校評価が上がった項目に関しては下げることなく、下がった項目や現状維持だった項目さらに80%に達しなかった項目に関しては、細かな分析を行い、取組方法を改善して、教職員共通認識のもと取り組んでいきたい。